

シニア像という従来は夫婦二人で過ごす姿が想定されてきた。そして二〇〇七年には団塊世代が定年時期を迎えたために、友達夫婦の団塊世代がどんなに消費をしてくれるだろうと期待が膨らんだ。

しかし二〇一〇年の六十五～六十四歳（団塊世代に当たる）の人口を配偶関係別に二〇〇〇年の六十五～六十四歳と比較すると意外なことが分かる。男性の有配偶は二〇〇〇年も二〇一〇年も約三百九十万人で変化なし。死別も十三万人台で変化はない。ところが未婚は十四万三千八百四十人から五十万三千七百七十四人に、離別は十五万一千四百十人から三十万六千七百三十二人に増加。未婚と離別を合計すると約三十万人から約八十万人に五十万人も増加しているのだ。つまり団塊世代は十歳上の世代と比べて、夫婦で旅行する人は増えないはずなのである。

一方、六十～六十四歳の有配偶女性は三百一万八千六百十人から三百八十六万八千二百八十一人に。未婚は十五万二千四百七十九人から二十七万八千七百四十一人に、離別は二十万七千八百六十六人から四十二万二千六百八十八人にそれぞれ増加。死別は五十七万五人から四十八万三千四百五十七人に減少している。有配偶は約八十五万人増加しているものの、未婚と離別の合計も約三十四万人増加しているのである。また団塊女性の夫の多くは団塊よりも五歳以上年上であり、二〇〇〇年ご

おひとりさま市場の拡大

消費社会研究家 三浦 展

るからすでに定年している。夫婦で旅行するとすれば二〇〇〇年からしているはずであり、二〇〇七年以降の需要とはあまり関係ない。それに、一緒に旅行するほど仲の良い夫婦は限られる。増えたとすれば、一人で気軽に、あるいは女性同士で旅行する女性であろう。

五十～五十四歳を見ると男性の未婚は二〇〇〇年の五十二万八千三百十八人から二〇一〇年は六十六万七千二百六十八人に増加。有配偶四百二十八万二千三百十三人から二百八十二万一千七百五十六人、死別は六万三千百一人から三万二千七百二十三人に、離別は二十五万五千二百八十二人から二十三万四千七百四十九人にそれぞれ減少している。女性も同様で増えたのは未婚だけで二十七万六千八百八十三人から三十二万八千五百四十人に増えている。二〇〇〇年の五十～五十四歳は団塊世代だから人口が多い。二〇一〇年の五十～五十四歳は人口がずっと少ない。にもかかわらず未婚は増えたのである。

つまり男女とも近年需要が増加したのは、そして今後需要が増加すると思われるのも、「おひとりさま」の需要なのである。コンビニエンスストアも外食も旅行も、おひとりさまを相手にしなければ売上げの拡大はないのだ。

（みうら あつし）